

「汐風を食べてみませんか。」は、DC南三陸町推進協議会のキャッチフレーズです。DCとは、仙台・宮城デスティネーションキャンペーンの通称で、JRと地域が一体となって展開する全国大型観光宣伝事業のことです。

汐風を食べてみませんか。

山の恵みが汐風とともに、海の恵みとなってやってきた

仙台・宮城デスティネーションキャンペーン全国宣伝販売促進会議

県仙台・宮城デスティネーションキャンペーン推進協議会事務局では、来年10月から12月に開催されるキャンペーン本番に向け、全国の旅行会社の商品造成担当者や旅行関係のメディア、JRグループの関係者など約700名を招いての全国宣伝販売促進会議が10月17日(水)、ホテルメトロポリタン仙台において開催されました。

DC南三陸町推進協議会では、この機会を絶好のチャンスととらえ、様々なPRを展開しました。



会場内でも一際人気のあった南三陸食材ブース

◆全国宣伝販売促進会議

会場内に設置された、リングの上で、宮城の“伊達なもの”対決が繰り広げられ、南三陸町からは「海に生きる伊達男」をテーマに、戸倉水戸辺在住の村岡賢一さんが出場しました。

村岡さんは、合羽にねじりはちまきと言う漁師らしい姿でステージに上がり「自然の恵みのありがたさ」と「南三陸に住む人の心の豊かさ」などを、漁師らしい勢いのある声で積極的にアピールし、会場内を大いに沸かせ、しっかりと町を宣伝してきました。

～村岡さんの発表内容から～

地方の人間、特に海の男は“もてなし”なんて事にはうといのかもしれない。でもね、自慢の船にお客さん乗せてさ、手間ひまかけてじっくり育てた最高の食材を、最高の状態で食ってもらって、無事に港に送り届ける、それが精一杯のもてなし。

この自然を守るのは自分達の当然の義務。そこから自分達は恵みを分けてもらってるんだから。ありがとさんって気持ちを忘れちゃダメなんだ。自分達を通して地元の元氣と、自然の恵みを感じてもらいたいね…。



レフリーから勝利のジャッジを受ける村岡さん

◆観光PRコーナー・商談会

三陸エリアとして設置されたブースに、特産品・パネルなどを展示して、全国からの来場者に対し広く町をPRしました。

また、商談会では、11社の旅行会社に、南三陸時間旅行サポートセンターの紹介と、地域ネットワークを駆使した、小さくてもきらりと光る観光資源のプレゼンテーションを積極的に行ってきました。

◆レセプション

県内各地から逸品と言われる食材を集め、来場者に対し食のPRを行いました。当町からは、これまでの功績が認められ、ヤマウチ(株) (代表取締役 山内正文さん) から「帆ッ伊達な炙り」(平成19年度みやぎものづくり大賞グランプリ受賞商品)と「牡蠣の桜燻し」(農林水産大臣賞受賞商品)、そして及善蒲鉾店 (代表取締役 及川善祐さん) からは「リアスの秘伝」(農林水産大臣賞受賞商品)が、会場内に並べられました。

また、レセプションの中で行われた、食のプレゼンテーション「川上VS川下」では、山内社長が 川下代表として登場し、再びリングの上を南三陸町の話で沸かせました。

～山内さんの発表内容から～

昭和24年の創業以来、志津川港に水揚げされる活きのいい魚介にこだわり、それぞれの食材が持つ最高の味を、皆さんにお届けする事を務めとしています。

素材にこだわる他に、調味料も宮城県にこだわり、酒は一の蔵の特別純米酒辛口を、味噌は中田町の米と、平磯地区のミヤギシロメで作られたものだけを使っています。なんとと言っても志津川湾で採れる素材は、そのものが1番うまい。地域が一体となってこの海を守るため頑張っています。

どうぞ皆さん、泊まって良し、食べて良しの南三陸へ、是非お越しください。

ふるさと観光講座 (11月開催情報)

- 11月5日(月) 午後1時30分
海の体験から学ぶ
(インストラクター: 村岡賢一氏)
- 11月27日(火) 午後6時
里山料理を味わう (インストラクター: 小野寺寛氏)
ふるさと観光講座では、その都度興味のある講座に参加することができます。ただし、開催日の3日前までにお申し込みください。

問い合わせ 産業振興課 観光振興係 ☎46-1378

庄内の風 ⑭

友好町の山形県庄内町を紹介する情報コーナー

「たちかわ秋まつり」に参加した方に、その様子をレポートしていただきました。



マグロ解体に人だかり

10月14日(日)、私たち宮城県漁協歌津支所女性部は、友好町である庄内町の「たちかわ秋まつり」に浜焼きコーナーで参加しました。当日は、早朝から夕方までのハードなスケジュール。往復7時間もの間車に揺られる、短いようで長い旅になりました。

会場に到着し、さっそく調理を開始すると、磯の香りをたどるようにして、人が集まってきました。我が町の特産品であるホタテとイカにしょうゆと酒、みりん、シンプルに味付けをした浜焼きを、庄内の皆さんは喜んで食べてくれます。「んめがら、たべでみせえ。」「このホタテんめ。」「思わずほつとしてしまう部員の皆さんと庄内の方々の和やかなコミュニケーション。

その様子を見るたびに、食べ慣れたはずのイカやホタテが、ごちそうに思えるから不思議でした。行列に並んで買っていた庄内の皆さん、丁寧に世話を焼いていた庄内町役場の皆さん、荷物の運搬等に力を貸していただいた水産加工業者の皆さん、また、前日の準備から活躍していただいた港支部の皆さんに大感謝します。庄内はおいしく、さわやかな風が吹く町でした。

「たちかわ秋まつり」に参加して
宮城県漁協歌津支所女性部事務局員
10月14日(日)、私たち宮城県漁協歌津支所女性部は、友好町である庄内町の「たちかわ秋まつり」に浜焼きコーナーで参加しました。当日は、早朝から夕方までのハードなスケジュール。往復7時間もの間車に揺られる、短いようで長い旅になりました。



浜焼きは2時間足らずで完売!

夢大使 リレー通信 ⑮



夢大使 藤島 純七さん (仙台市)

各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。今回は、七十七銀行志津川支店の元支店長で現在(株)七十七カードに勤務、アマチュア写真家としても活躍する藤島純七さんです。

今年3月より現在の職場で内勤になったこともあり、忙しい日々が続いている。特に、10月は9月の中間決算の資料作成に追われ、不慣れなこともあり、四苦八苦し



て、やっと完成した。あわせて、今回は、高校時代の同級生の岩出山中学校長と岩出山「政宗公まつり」で、久しぶりに再会したことがきっかけで、私の「写真個展」の依頼があった。開催期間は、10月20日の「文化祭」をポイントとし、16日から20日となった。14日が、写真の搬入日。写真は37点、前日、「額」に入れ、「タイトル」を作成していたら、あつという間に、「深夜」になってしまった。テーマは「みちのくの四季・祭り」。「大崎市岩出山」、「南三陸町」、「宮城県内」、「宮城県外」のコーナーに分け、風景、祭りのスナップの構成と

改めて、写真撮影のきっかけを作っていた南三陸町の風景や、町民の方々の温かい人情のおかげと感謝申し上げたい。そして、これからは微力ながら、「南三陸町」のPRに努めたいと思います。忙しいことを理由に、私の日記風、乱文になってしまいました。お許しください。

した。「南三陸町夢大使」の私としては、展示場所を含め、「岩出山」と同じ位に力をいれた。「神割崎の夜明け」、「行山流八鹿躍」、「入谷打囃子」、「志津川湾夏まつり」など、「河北写真展」、「リアス四季フォトコンテスト」入選作品を中心に8点展示した。岩出山校長先生自らも、手伝っていただき、妻と二人でやっとの思いで展示を終え、ほっとして帰宅した。少し話は戻るが、9日の河北新報で「平成19年度・宮城県写真展」でトップ賞の「宮城県写真連盟賞」受賞について、発表掲載されたため、お祝いの電話対応に追われた。こちらは、うれしい悲鳴であった。

忙中閑あり